

新卒就活市場におけるミスマッチ —RJP理論を用いたキャリア教育の検討—

玉井 誠

【要旨】

近年、新卒社会人の早期離職が問題視されている。厚生労働省が発表した統計によると、従業員数が1000人を超える大企業でも約2割の新卒者が3年以内に早期退職しており、企業規模が小さくなるほどその割合は高い傾向にある。早期離職の原因は何なのか。本論文では早期離職を学生と企業のミスマッチの視点から考察し、大学生の就職活動に対する意識調査をするため、日本大学商学部の学生に対しアンケートを実施することで、分析・考察を行った。これにより就職活動のルール of 形骸化や、学生の就職活動に対する当事者意識の低さが問題であることが明らかになった。

これを解決するために、米国で研究が進められているRJP理論をもとに大学のキャリア教育に生かすことはできないか、先行研究をもとに検討を加え、考察を行った。この新しいキャリア教育により、学生に早い段階で就職意識を持たせ、学生と企業のミスマッチを減らすことが期待できる。

【講評】

本論文では学生の早期離職という非常にホットなテーマを扱っている。マクロデータならびに日本大学商学部の学生を対象としたアンケート調査から独自のデータを得て、研究課題の解明に取り組んでいる。また、実証研究のみならず、理論研究をみても学部学生としては非常に多くの文献を読み込んでおり、論文のグランドセオリーを明確にしている点も高く評価できる。

問題意識にはじまり、データ収集・分析による現状分析と理論に基づく解決策の提示までのプロセスが明確であり、日本大学商学部生ならではの有益な知見と提案が導かれている。

本論文は、そのテーマ性と内容において優れた論考であり、優秀卒業論文にふさわしいといえる。